目　次

広島派遣団になって　青谷小学校　6年　堀井大護　1

命の尊さ　久世小学校　6年　下田彩乃　2

小中学生広島派遣団に参加して　久世小学校　6年　井上智貴　3

広島派遣団に参加して　久世小学校　6年　中野綾香　4

広島派遣団に参加して　久世小学校　6年　松田栞奈　5

広島派遣団に参加して　久世小学校　6年　松田晏奈　6

広島県で学んだ事　久世小学校　6年　引口海音　7

広島に行って　寺田小学校　6年　古津遼平　8

広島に行って　寺田小学校　6年　中西真由　9

永遠の平和を願って　寺田小学校　6年　西久瑠実　10

広島を訪ねて　寺田西小学校　6年　近藤樹　11

広島派遣団になって　寺田南小学校　6年　小川侑里　12

広島が教えてくれたこと　寺田南小学校　6年　高瀬萌衣　13

広島へ行って　寺田南小学校　6年　岩見沙穂　14

これからの平和を願って　寺田南小学校　6年　山田涼音　15

戦争の恐ろしさ　富野小学校　6年　島本葵　16

原爆の恐ろしさを知って　富野小学校　6年　有村龍哉　17

広島に行って　富野小学校　6年　近藤美紅　18

広島派遣団に参加して　富野小学校　6年　奥友香　19

現実の広島　富野小学校　6年　小林未夢　21

広島に行って　深谷小学校　6年　櫻井一成　22

広島派遣団に参加して　深谷小学校　6年　槇宇楽　23

平和学習をして　深谷小学校　6年　大矢千紗　24

広島を訪ねて　深谷小学校　6年　矢野瑞季　25

広島で学んだこと　深谷小学校　6年　小谷徹也　26

広島に行って　南城陽中学校　1年　神紗彩　27

色々な事を学んだ平和学習　南城陽中学校　1年　大西優衣香　28

心の変化　東城陽中学校　1年　塩田黎　29

広島に行って　城陽中学校　1年　河合健志郎　30

言葉の意味　城陽中学校　1年　田中輝　31

広島派遣団へ行って　南城陽中学校　1年　森西光　32

平和とは何か　西城陽中学校　2年　西森駿也　33

広島に行って　南城陽中学校　2年　吉田彩恵　34

広島に行って　南城陽中学校　2年　宿利紗英　35

平和の尊さを学んで　四天王寺中学校　3年　齊藤穂香　36

広島派遣団になって

青谷小学校　6年
堀井大護

「ブオォ～」バスが走っている。このバスは広島に向かっていて、その理由はぼくが広島派遣団になり、広島で起きた原爆のことを学ぶためでした。広島派遣団は城陽市の小学6年、中学生までの人が原爆を学ぶために応募し、当選した人が広島派遣団です。

バスを降りて「あいおい」という所で昼食を食べ、またバスに乗り、次は平和記念資料館に行きました。そこにはボロボロのくつ、ボロボロのワンピース、火傷をおった人の写真、さびた三輪車、残こくなものばかりでした。次は資料館地下展示場に行きました。そこも惨こくなものがたくさんありました。血のしみついた服、ひどい絵、そんなものばかりだった。ぼくは思った、原爆はこわい。そう思い、次の原爆体験者の話を聞いた。その話は原爆が起きた時の話だった。その時、体験者は小学3年生だったそうです。体験者が日本の飛行機だと思い手をふっていたらピカッと一しゅん光り、爆風で体をたたきつけられ、そこからは覚えてないそうです。「約10秒で広島は悲しい景色になった」と言われたのがとても印象的だった。戦争が終って66年たった今でも原爆や戦争が人々の心に深い傷を残していることが分かりました。

次の日、広島平和記念公園に行きました。原爆死没者慰霊碑に花をささげました。原爆の子の像に折りづるをささげました。そして原爆ドームと追悼平和祈念館に行きました。ここでも改めてかわいそうな気持ちや、悲しい気持ちになりました。罪のない人達がぎ牲になった戦争を二度と起こしてはならないと思います。

ぼくは広島派遣団になって、戦争や原爆について多くの事を学びました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。城陽市は「平和都市宣言」をしています。ぼくもその宣言に基づいて、これからも原爆のおそろしさ、戦争は絶対にダメだ、という事を語りついでいかないといけないと思います。ぼくは核兵器のない平和な世界を築くことをちかいます。

命の尊さ

久世小学校　6年
下田彩乃

昭和20年8月6日。広島に世界初の原子爆弾が投下されました。その時は戦争で日本の状態が苦しく、普通の爆弾は雨のように落とされていたそうです。けれど原子爆弾は普通の爆弾と違い、広島の人の命が一瞬で失われたことを知りました。私はそれまであまり戦争のこと、当時の日本の様子は知りませんでした。なので私は日本国民の一員として戦争のことを後世に伝えられたらなという思いで広島派遣団員に応募しました。

1日目。市役所を出て5時間ほどバスに乗りました。バスから降り、お昼ご飯を食べて平和記念資料館や資料館地下展示場を見学しました。そこでは今の生活では考えられないようなものが沢山ありました。その後、被爆者講話を聞きました。講話では当時の様子を思い出し、涙ぐみながら原爆のことをお話してくれました。私はそれが記憶にすごく残りました。そうして1日目の予定がだいたい終わり、旅館へむかいました。旅館では友達と一緒で楽しかったです。夜のミーティングも少しきん張して声が小さくなってしまったけれど、思ったことを自分なりに言えてよかったです。

2日目は原爆死没者慰霊碑、広島二中原爆慰霊碑に拝んで原爆で命を落としてしまった子の像に自分達が持ってきたり、コミュニティセンターなどで折ってもらった折り鶴を捧げました。佐々木禎子さんは幼いころに原爆の放射線をあびてしまい、私と同じぐらいの年で亡くなられたそうです。私は戦争はなぜ戦争と関係のない人の命までうばってしまうのだろうと思いました。鶴は禎子さんの魂を乗せて争いのない平和な世界まで連れていってあげたのかなと思いました。昼食の広島焼は少し多くて残してしまったけれど、すごくおいしかったです。

私は2日間広島で原爆や戦争のことをたくさんのものや、たくさんの人から学びました。戦争を経験された方々は今でも心の傷をおっているのだと思います。私はそんな戦争が二度とないよう、永久の平和を願っています。

小中学生広島派遣団に参加して

久世小学校　6年
井上智貴

城陽市役所からバスに乗り5時間位で広島に着きました。広島の町は『長い間、草木がはえないだろう。』と言われている事を知っていたので草木がないのかなぁ～と思ったけど草木が多くはえていたので、びっくりしました。平和記念資料館に入りました。まっくろのお弁当箱、三輪車、ズボンなど数々の色々な人の遺品を見ました。平和記念資料館にあった物は、ふだん日常生活などでできないこげた跡などがありました。でも一番原爆でこわいのは放射能だと思います。理由は目にも見えない、においもないのに人の体の中に入り、病気をおこしやすくなる所がこわい所だと思います。

一番印象に残っているのは、やっぱり被爆体験者の方の話です。原爆が落とされる前は戦争一色だったそうです。毎日竹やり訓練やバケツリレーだったらしいし、学校でも自由に話ができなかったらしいし、理由は憲兵につれていかれて重い罪になるからです。まるで北朝鮮の様な国だったとおっしゃっていたし、中学生は鉄ぽうの玉を製造する工場で働いたそうです。

そして１９４５（昭和20）年8月6日この日『リトル・ボーイ』と言う名前の原子爆弾が広島市内の島外科の上に投下されました。投下してからすぐすごい横風がふいて一しゅんで家などがなくなったそうです。そして10秒位で広島の町は大火災になったそうです。２㎞けん内では7万人の人々が、即死したそうです。そして生きる希望をなくした６０００人にものぼる戦争孤児が終戦してからも大変なやまされたそうです。と言う事を聞いてから現代の広島の町を見ると、ぜんぜんその様な感じがないと思いました。でもその様な事実があったのに今の世界は核の開発、戦争、内戦などまだまだ世界人類全員が平和とはいえない世界だと思う。なぜ簡単に人間を殺すことができるかよくわかりません。人類は平和と自由を願っていかなければならないと感じたし、今ここに命があることも感謝しないといけないと強く強く感じた。日本人のぼくたち子どもは戦争への気持ち、思いが年々うすれてきていると思い、この「城陽市平和のための小中学生広島派遣団」で学んだことをこれからたくさんの友達などに教えることができたらいいなぁ～とぼくは思いました。

広島派遣団に参加して

久世小学校　6年
中野　綾香

私が広島派遣団になろうと思ったのは、友達にすすめられたからです。

1日目、バスに5時間ぐらい乗りました。となりにすわっている友達と楽しくしゃべっていました。

そして広島に着きました。広島はとてもにぎやかで明るく、活気にあふれていました。その時までは、私はとてもウキウキしていました。

昼食を終え、平和記念資料館に入ったとたん、今さっきまでのウキウキ感はなくなり、原爆のおそろしさ、こわさ、悲しさなどがいっきにこみ上げてきました。

熱でボロボロになったズボン、真っ黒こげのお弁当箱、原爆で何もかもなくなった広島の模型、さらに熱でとけた皮膚の模型などを見て、原爆がとてもおそろしい物だと思いました。

次に資料館地下展示場に行って色んな人が書いた絵を見ました。

水をほしがる人々の絵、家族を待っている絵、全身大やけどをした絵、色々な絵を見て私は心が痛くなりました。

その次に被爆者講話を聞きました。原爆投下前の広島と原爆投下後の広島の違いがよく分かりました。

そして話が終わり旅館に着いて、まずおふろに入り、夜ご飯を食べ、ミーティングをしました。一人一人の感想が聞けて良かったです。

2日目、原爆死没者慰霊碑に花をささげ、次に原爆の子の像さだこちゃんに折り鶴をささげました。この時私は、（もう二度とみんなが苦しむようなことが起きませんように。）と願いました。

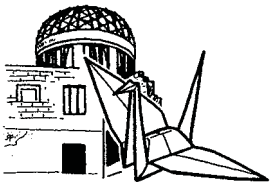
次に原爆ドームに行きました。半分がくずれていてひびなどがはいっていました。原爆ドームを見ると、原爆投下後の広島の風景が目にうかんできます。

そして最後に広島焼きを食べました。自分で作った広島焼きは、とてもおいしかったです。

そしてバスに乗りました。私はねむくてねてしまいました。気がつくと、城陽市役所に着いていました。

私は家に帰って家族の人に、広島に行って学んだことをいっぱい話しました。

原爆のおそろしさやこわさや悲しさは、一生忘れてはいけないことだと思います。平和を大切にし、命の尊さを大事にしなければならないと思いました。



広島派遣団に参加して

久世小学校　6年
松田栞奈

私はこの広島派遣団に参加して、原爆の恐ろしさがとてもよく分かりました。

私は行く前、とっても楽しみでした。でも、平和記念資料館を見学していると、本物の写真や皮ふがとけてたれさがっているジオラマや熱でボロボロになった三輪車や黒こげになったお弁当箱などがありました。それを見ていると、見学する前より原爆が怖くなりました。特に印象に残っているのは、8時15分で止まっている時計です。その時間に世界で初めての原子爆弾が落とされて、その爆弾のせいで、約14万人以上の人の命がうばわれたので、とってもかわいそうでした。

その後講話を聞きました。語り部さんは、最後に、『家族がいるだけで平和・命は大切』と言っていました。私は、（本当にそうだなぁー）と思いました。原爆はとっても恐ろしいことがよく分かりました。被爆して今生きている人でも原爆の放射線のせいで病気になったりしています。佐々木禎子さんも白血病で亡くなってしまいました。たった一つの原爆で約14万人の人が病気になったり亡くなったりしているので、この世界から、そんな怖い物がなくなってほしいです。放射線は目に見えないし、今広島にいる人の中でも原爆のせいで、病気になっている人がいるんだなぁと思いました。外見的には、病気じゃないように見えるけど、本当は、白血病とかの病気にかかっている人がいると思うと、とっても悲しいことがあったんだなぁと思いました。

今は、平和で日本は戦争とかはないけど、まだちがう国では戦争がおきているので、これからは、原子爆弾や核兵器がいらない世界になってほしいです。自分たちの行動で世界を平和にできるので自分の一つ一つの行動に責任をもたないといけないと思いました。

この『平和のための小中学生広島派遣団』に参加して、戦争の恐ろしさがよく分かったので、とっても勉強になりました。

この原爆の話をいろんな人に言って、これからもこの平和が続くようにしたいです。

広島派遣団に参加して

久世小学校　6年
松田晏奈

私は、広島派遣団に参加して、原爆の恐ろしさを知りました。

初めは、とっても楽しみでした。バスの中ではみんなとしゃべって楽しかったです。昼食を食べ終わり、平和記念資料館を見学し、特に印象に残った物は、8時15分で止まった時計、原爆が落ちた時の状況を示すジオラマ、原爆が落ちる前と後の広島の町の模型です。

8時15分で止まった時計は、その時、世界で初めて、広島に原子爆弾が落とされた時間です。その時、一瞬にして、広島の町は、活気のあふれた町から、焼け野原に変わりました。

他にも、皮ふがたれ下がった人が水を求めているジオラマ、黒こげになったお弁当箱などがあって、原子爆弾はとっても怖いし、戦争は二度としてはいけないことだと思いました。改めて、原爆の恐ろしさを学びました。

一つの原爆で約14万人もの人がなくなりました。その人たちのおかげで、今の日本は、戦争のない平和な国になっているし、今、私達が生きられているんだと思い、被爆者の人達の死をむだにしないようにしたいです。

次の日は、平和な世界を願い、原爆の子の像に折りづるをささげました。原爆死没者慰霊碑には、花をささげました。

その後、広島焼を作りに行きました。自分で作った広島焼は、とってもおいしかったです。家で食べているお好み焼きとは違って、めんも入っていてボリュームがあって、とってもとってもおいしかったです。

私は広島派遣団に参加させていただき、本当に良かったです。命の大切さ、平和の大切さを知ることができました。戦争は絶対にしてはいけないと思います。地球上から、核兵器や原子爆弾がなくなってほしいです。そのためにも、この先ずっと、この広島で起こった出来事をいろいろな人に語り伝えていかなければ、と強く思いました。早く世界中が平和になりますように…。

広島で学んだ事

久世小学校　6年
引口海音

今年は原爆が投下されて66年目でした。私は、そんなあたりまえの事だけを知って広島派遣団に参加しました。

今回、私たちが行って来た平和記念資料館では、展示されているものから原爆のおそろしさが伝わってきました。たった一つだけの原爆が町の何から何まで一瞬でこわし、衣服はボロボロで、皮ふはたれさがり、人々は水がほしいと川に飛び込みながらなくなってしまったそうです。そしてあたり一面は生き地ごくになったそうです。その展示物を見て私は、原爆は改めてこわいものだなぁと思いました。その他には、真っ黒にこげた弁当箱・三輪車・8時15分に止まった時計からも、原爆はおそろしいものだということを教えられました。

私がこの事から思ったのは、日本はどうして「戦争をやめよう」といわなかったのか、なんで世界中の人たちと殺し合いをするのか、どうして戦争をするのか、どうして広島の地に原爆が投下されたのか、どうしてアメリカ軍は原爆を投下したのか、まだまだ分からない事ばかりで今後勉強していきたいと思います。そして、機会があれば長崎県か地上戦の沖縄の地へも行ってみたいと思っています。

そして、私が広島派遣団に参加して特に心の中に残ったものは、佐々木禎子さんの１０００羽以上のたくさんのつるでした。佐々木さんは、運動神経抜群で足が速く活発な女の子でした。

しかし、2歳の時に自宅で黒い雨により被爆し、10歳の時に大きな病院で調べると白血病であることが判明しました。佐々木さんは入院中に薬の包み紙などでつるを折り始めたそうです。そしてそのつるが１０００羽以上になって佐々木さんはなくなったそうです。私は、そのことが一番心に残りました。

そして、最後に私はこれからも一人一人が命を大切にし、世界中の戦争がなくなり平和がつづくことを願います。

広島に行って

寺田小学校　6年
古津　遼平

ぼくが派遣団に入った理由は、いつ何があったかを知りたいのと、戦争のおそろしさや爆弾のこわさ、どういうしくみかを知りたかったからです。

1日目に平和記念資料館に行きました。

残こくな写真や絵、模型などがありました。特に心に残ったのが変形したガラスばんです。それは、すごくあつい熱でとけて変な形になったからです。

ほかにも血がついてぬぐときに切りさかれたズボンもあり、焼けこげた弁当箱もありました。

次に語り部の人から被爆体験の話を聞きました。

語り部の人がこんなおそろしいことが目の前で現実にあったといっていたので、かわいそうだと思いました。

2日目に原爆ドームに行きました。

原爆ドームは真上から爆風があたり、つぶれずにすんだと聞きました。

近くで見ると迫力がありました。

ぼくは歩いている途中に、爆弾が落ちてきそうでこわかったです。

今では、あんなにおそろしいことがあったのに広島は、ふつうで、何もなかったようなきれいな街になっています。

次に、お好み焼きを作りました。

自分では、あまりうまくはできなかったけど食べるとおいしかったです。

ぼくは今回、広島派遣団に参加して広島に落とされた原子爆弾のことなど、よく分かりました。

原子爆弾とは、とてもおそろしいものなので二度とこのようなことはあってはならないと思いました。

そして、このことを友達や人々に知らせてあげたいです。

今でも、戦争がおこっている国もあります。世界中が平和でくらせるように祈ります。

勉強になったのでよかったです。

広島に行って

寺田小学校　6年
中西　真由

わたしは日本が戦争をしていたことや、日本に原子爆弾が落とされたということについて家族から少し話を聞いていましたが、全く分からなくてよその国の出来事のような感じに思っていました。でも今回広島派遣団に参加してこの考えはがらりと変わりました。

平和記念資料館に行くと皮ふがとけてしまって性別が全く分からないような模型がありました。わたしは原子爆弾は本当におそろしいものだということがよく分かりました。

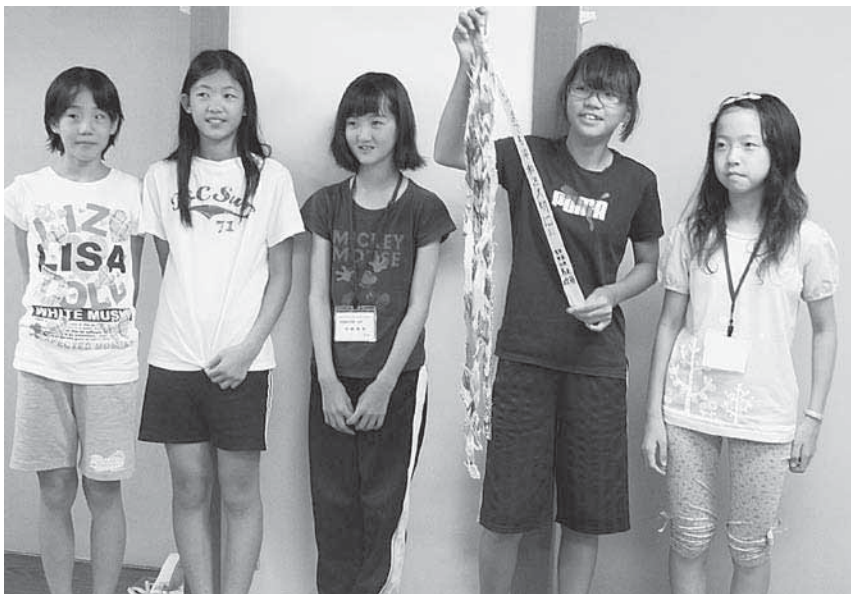
原子爆弾が落とされてから66年がたった今も原子爆弾から出る放射能を浴びて苦しんでいる人や、亡くなってしまう人もいることが分かりました。原子爆弾から出る放射能が一番の原因なのではないかなぁと思います。

今の日本は戦争もなくとても幸せで平和な日々を過しています。しかし、原子爆弾が落とされた時に生まれた人や生きている人たちはたった一つの原子爆弾によって多くの人たちの夢や希望が全て失われました。このことについて、たくさんの人たちに伝えていかなければいけないなぁと思いました。

戦争は人の体も傷つけてさらに心まで傷つけるとてもおそろしい物だと知った。そして戦争が二度とおこらないようにするには、これから先の将来を担っていく私たちが世界中で核兵器を使用することや戦争などが全くない、平和な世界にしていかなければいけないということを改めて実感しました。

わたしはこの広島派遣団に参加して、戦争のことについてや核兵器のことについてよく分かりました。また、直接被爆者の方からも話を聞くことができました。そして城陽市のちがう小学校の人や中学生とも友達になることができて、とっても貴重な体験でした。

これからも戦争についてや核兵器についてもっと調べていきたいと思いました。



永遠の平和を願って

寺田小学校　6年
西　久瑠実

私は、戦争のことをまったく知らず広島派遣団に参加しました。参加したことで「原爆の恐ろしさ」と、「平和の大切さ」をこんなにも知ると思いもしませんでした。

朝のバスから、ドキドキ、ワクワクの旅行気分でいっぱいでした。しかし、5時間後の平和記念資料館に入り少し見回すと、ドキドキ、ワクワクの気持ちは一瞬にして消えました。今の私達の生活と全く違うので、本当にこれは現実だったのだろうかと驚きました。資料館には、広島の人々の苦労や8時15分で止まった時計、黒こげのお弁当などがあり、特に印象に残ったのは、原爆投下直後の人を再現した人形でした。手は何本もあり、かみの毛はちりちりで、性別が分からなくなっていました。又、その時の人の声が、

「お母ちゃん・・・助けて、熱いよう。」

「水、水をくれ～。」

というような、忘れられない言葉でした。私はこの資料館で初めて戦争の事を勉強しました。とても怖かったけれど、現実にあった戦争の出来事をしっかり受けとめようと思いました。そして、二度とこのような戦争を起こしてはいけないと思いました。

次に、被爆者の講話を聞きました。私は初め聞きながらメモを取っていましたが、途中から手も、心もふるえだし、メモも取れないくらい悲さんな話でおそろしさを感じました。そして、被爆者の方の話は改めて貴重だなぁと思いました。

これで1日目は終りましたが、何も知らなかった私は、内容のこい一日でたくさん学ばせていただきました。

2日目の初めは、原爆死没者慰霊碑に行き、花を捧げました。花を捧げるとき、大変だったでしょう。これからは私達が平和を守りますね。という思いで捧げました。

次に、広島二中原爆慰霊碑に行きました。ここで、私達と同じ年くらいの子たちが、被爆されどれだけつらかっただろうかと思うと胸がはりさけそうでした。

次に原爆の子の像に行き、折りづるを捧げました。全国から折りづるが集まっているのですごい数でした。広島の事を考えた折りづるがたくさんあり、感動しました。

次に追悼平和祈念館に行き、被爆された方の写真がたくさんあり、とても悲しくなりました。一つの爆弾で数えきれないほどの人の命がうばわれました。その中でも家族や大切な人を失っています。ですが、私達には今当然のように、家族があります。自分の家族を大切にして永遠に平和な世界を築いていかなければならないと心から思いました。そして、私もこれからずっと戦争の恐ろしさを伝えていきたいと思いました。本当に広島派遣団に参加できて良かったです。

広島を訪ねて

寺田西小学校　6年
近藤　樹

ぼくは、「平和のための広島派遣団」に参加したのは両親のすすめでした。また友達にさそわれたからです。

広島に着くと「本当に原爆が落とされたの。」と思うくらい、大きなビルが建っていて木や草も生えていました。ぼくは平和記念資料館に入るまでは、友達としゃべっていましたが、資料館でビデオを見て原爆の落ちた後が、あまりにも悲惨過ぎて、とてもこわくて、「帰りたい」や、「原爆が落とされた所に住んでいなくてよかった」と思いました。とても見ていられませんでした。その訳は、一瞬で荒れ地のようになり、とても熱くなり、体がとけたり、目が飛びでたり、川が死体でいっぱいだったからです。ぼくは、この時からこわくてこわくてたまりませんでした。他にもガラスのビンがふにゃんと曲がってへっこんでいたり、家の屋根のかわらがざらざらしていました。資料館の地下は原爆投下後の被爆者の絵や、被爆者が身につけていたものなどがありました。ぼくは、なぜアメリカ軍が原爆投下したのだろうと思いました。

被爆体験者の話は、「その時はまるで、地獄のようだ」と話していたことが耳からはなれませんでした。その日はとてもねむれなかったです。

次の日は、主に、「平和記念公園」を見学しました。爆心地の近くにビルや家が建っていたことにびっくりしました。現在の広島を見て、「人間の技術はすごい」と思いました。

原爆ドームに着くと、まるで原爆投下直後にタイムスリップしたかのような感じでした。その訳は、建物の色が無く、れんががくずれ、鉄骨の一部が見えていて、今にもたおれてきそうだったからです。

昼食で、広島焼を自分で作りました。ぼくは、料理が苦手ですが、おじさんがわかりやすく教えてくれたのでうれしかったです。しかし、広島焼をひっくり返すのが、1回目は失敗したけど、2回目はうまくひっくり返せてうれしかったです。おいしかったです。

ぼくはこの企画で、ねむれないくらい、思いだしたくないくらい、わすれたいくらいつらい経験をしましたが、広島のことも原爆のこともくわしく知れて良かったです。

広島派遣団になって

寺田南小学校　6年
小川侑里

私は、3年生のころに映画の「はだしのゲン」を見ましたが、まだ小さかったのですごくこわかったのをおぼえています。上から原子爆弾が落とされて大きなキノコ雲ができたのを1番のきおくに残っています。それを見て、1回広島へ行って、原爆ドームを見てみたいと思っていました。

6年生になったら「城陽市平和のための小中学生広島派遣団」のポスターがあったので応募したら当ったのでとてもうれしくなりました。でも当日までにだんだん（何か行きたくないなぁー）と思っていましたが当日になって行こうと決めました。行って帰ってきてから行ってよかったと思いました。

平和記念資料館へ行って一番印象に残ったのは、「サダコと折りづる」です。「佐々木禎子さんは、2才の時に、爆心地から1・7㎞はなれた楠木町で被爆しましたが、無きずでした」と書いてあるのを読んで、そのころは（あ、そうだったんだ、よかった～。）と思いました。小学校6年の秋に発しょうした病気で、翌年の1955年（昭和30年）2月、白血病と診だんされ、広島赤十字病院に入りました。という所を読んで、（えっ、何で何で?）と思いました。その先を読んでると2才の時に受けた放射能が10年後に病気になって現れたのでした。

折りづるを千羽折れば、病気が治ることを聞いたさだ子さんは、薬の包み紙でつるを折りつづけましたが、その願いもかなわぬまま同年10月25日、8ヵ月のとう病生活をおえました。12才でした。

これからは、もう原子爆弾の無い平和な世がこのままずっと続きますようにと願っています。

私は、この1この爆弾のせいで尊い命が失われていることがとてもとても、にくくて、でもこのような心を持っていることが、戦争につながるのだと思います。

私は宣言します。「私は大人になっても尊い命をうばったり、核を作ったりしませんと…。」

私は、その後、原子爆弾が落ちたらどうしようと思いましたが、私は日本を人を言葉を信じます。そうじゃないと、原爆ドームを残した意味が無いと思います。

私も、「平和宣言」をしたことを必ず守ります。

広島が教えてくれたこと

寺田南小学校　6年
高瀬　萌衣

今から66年前の夏　8月6日　8時15分　雲がひとつもない晴天の街、広島が一瞬して焼け野原になりました。世界で初めて原子爆弾が落とされました。

私は、戦争についてこれまで学校で勉強したり、ビデオを見たりしてばく然としか知りませんでした。

広島の街に到着して、まず私が目にしたのは近代的なビルが建ち並び、木や花がたくさんさいているきれいな街でした。戦争が起こった街とは想像もつきませんでした。

まず、最初に訪れた平和記念資料館では、原爆で受けた被害の悲惨さを目の当たりにしました。私にとって一番印象に残ったのは、全身のひふがただれた被害者の模型です。おもわず目をおおってしまいたくなるようなくらい、体がとけたようになっているひどい状態の人達でした。そこにあるのは、3人の方の模型だけでしたが、実際にはこのような人々が街をうめつくしていたそうです。他にも、黒こげの弁当箱やくずれた三輪車、白いかべに残った黒い雨のあとなど原爆の被害のひどさをいやというほど思い知らされました。今まで私が想像していたのをはるかにこえていました。

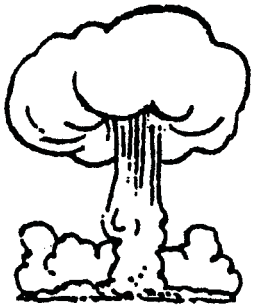
被爆者の方のお話は、実際に戦争で体験したときのものでした。アメリカ軍のB－29が落としたリトルボーイという原子爆弾が一瞬にして大勢の人の命をうばったそうです。この戦争でたくさんの子どもが犠牲になり、戦争が終わっても子ども達は大人を恨んだそうです。被爆者の方はどんどん少なくなってきているのであなた達から一人でも多くの人に戦争の悲惨さや二度と戦争を起こしてはいけないことを伝えてほしいと願っておられました。

翌日、平和記念公園に行ってみんなで折ってきた千羽づるをささげました。私は原爆の被害にあったたくさんの方々を思い、もう二度と戦争が起こりませんようにという願いをこめてつるをささげてきました。そこには、世界中の方が平和を願ってささげたつるがたくさんありました。

元安川の向こうには、戦争の悲惨さを訴え続ける原爆ドームが建っていました。広島県産業奨励館と呼ばれるその建物は、当時の大きさの約半分になりながらも、今も私達に戦争は二度としてはいけないと語っているようでした。

私は今回、この広島派遣団に参加してたくさんのことを学び、貴重な体験をすることができました。被爆者の方の願いにもあったようにこれから一人でも多くの人に戦争のおそろしさや平和の大切さを伝えていきたいと思いました。

そして最後に、この夏たくさんの事を教えてくれた広島の街ありがとう。そして、世界中が平和でありますように・・・



広島へ行って

寺田南小学校　6年
岩見沙穂

わたしが、広島派遣団に参加したのは、友達に誘われたからと、戦争がどれほど恐ろしいのかを知るために参加しました。

1日目に、平和記念資料館を見学しました。そこでは、原爆ドームの模型があり、原子爆弾が落とされる前の町と落とされた後の町もありました。一番印象に残っていることは、アナウンスから流れて来た、「お母ちゃん、痛いよー、痛いよー…。」という声と、熱でドロドロになり、たれさがっている皮やさか立ったかみの毛の男か女か、分からなくなった人が、一生懸命家族をさがす所です。それを見て、もう絶対に戦争などの、しても得がなくむしろ傷つくだけのことを、これからずっとしてほしくはないと思いました。

その次に地下へ行って、被爆者が書いた絵を見ました。そこには、「水をください」と水を求めている人の絵や、川で死んでいる人々の絵など、原子爆弾がとても恐ろしく、悲しい現実を描いた絵ばかりでした。

その次に被爆者の講話を聞きました。その当時はラジオで情報を得ていたそうです。健康な男性は、召集令状が出され戦いに行かなければならなくて、健康な男性がいなくなると、中学生が戦いにいかなければならなかったそうです。人々は、毎日空しゅうにびくびくしながら生活をしていて、学校の運動場は畑につかわれていて、子どものころそれがあたりまえだと思っていたそうで、わたしたちが毎年している運動会を昔の人たちは、していないので、今とは全然違うんだなと思いました。

2日目、広島平和記念公園へ行きました。菊の花を持ったわたしたちは、原爆死没者慰霊碑に花をささげました。原爆の子の像には、班ごとにおりづるをささげました。その後、原爆ドームへ行きました。原爆ドームを近くで見ると、鉄骨が見えていて、レンガにひびが入っていました。このドームから、戦争がどれほど悲惨だったかが伝わってきたので、原爆ドームを残して正解だったと思います。それに、世界へも呼びかけができて、原子爆弾の怖さが分かり、思い出す事ができるからです。

その次に、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。そこでは、被爆者の体験したことを知ることができました。

昼食は、広島風お好み焼きで、作るのはとても難しかったけど、お店の人が教えてくれたので出来ました。そのお好み焼きは、自分で作ったので、とてもおいしくて、また食べたいと思いました。

広島へ行って、今まで思っていたよりもっと怖い思いをして、悲惨だったということが分かりました。なので、もう二度と戦争がおこらないように、戦争のことを知らない人々に教えていこうと思いました。

これからの平和を願って

寺田南小学校　6年
山田　涼音

私は、友達にさそわれて、広島の原爆の事を知れると思ったので、広島派遣団に参加しようと思い応募しました。

私は、広島派遣団に参加する前までは、戦争や広島の原子爆弾、長崎の原子爆弾のことは、ほんの少ししか知らなかったし、ただこわいという事しか知りませんでした。

7月28日、私たち広島派遣団はバスに乗り5時間15分かけて広島に着きました。

初めて来た広島の町は、にぎやかで緑がいっぱいある美しい町でした。本当にこんなにぎやかで美しい町に原爆が落とされたのかと思うぐらいでした。

1日目の初めは、広島平和記念資料館の見学で、広島にあった現実が次々と目に入ってきました。音声ガイドから流れてくる説明を聞いて原爆が落ちた時の広島の模型と原爆が落ちる前の模型を見て、その時の状況がよく分かりました。8時15分で止まった時計や、「まっ黒なおべんとう」という絵本のもとになったしげる君の弁当箱、ボロボロになった三輪車などがおかれていました。そして、その中で一番印象に残っているのは、爆弾が落ちた後と、皮ふがたれさがり男と女どっちがどっちなのか全然分からないくらいでした。

次に地下に行きました。地下では被爆者の絵のコーナーがありました。被爆者の方達が何かをうったえるような感じがしました。

被爆体験者の岡田さんの話では、ピカッと光って10秒で1万人が即死だと聞きました。あと、原子爆弾には、4千度以上の熱があり、放射能もふくまれており、すごい爆風もおこすようなすごい力を持っていることが分かりました。原爆が落とされる前の晩に、ずっと飛行機が飛び回っていたそうです。翌日原爆が落とされる1時間15分前の7時にくうしゅうけいほうが解じょされたそうですが、8時15分に原爆が落とされてしまいました。

ちょっと前に、東日本大震災がありました。その時と全く同じ景色だと被爆者の方が言っていたのを聞いて66年前と今の東日本はどちらも家がなく同じなんだと知りました。

2日目、平和記念公園に行きました。

まず、原爆死没者慰霊碑に行き花をささげて、原爆の子の像の所では、ミーティングの時に束ねた折りづるとメッセージをささげに行きました。その後、原爆ドームに行きました。私は、原爆の事を全く知らなかったので、原爆ドームを見てどれだけ原爆がおそろしいのかがよく分かりました。

広島焼き体験をさせてもらいました。作るのはとても難しかったけど、思ってたよりも上手く作れました。とてもおいしかったです。

それと、核兵器が1日でも早くなくなり、戦争が終わることを願っています。また、今私たちが、平和な世界へしていこうという気持ちを持つ事ができました。こんな貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

戦争の恐ろしさ

富野小学校　6年
島本　葵

私は初めて平和記念資料館に行き、被爆者の話を聞いて戦争の恐ろしさを知りました。

平和記念資料館には、焼けこげた学生服や黒こげになった弁当箱、人影の石、8時15分で止まった時計などがあり、その中にはもう見たくなくなるようなものも展示してありました。他にも原爆が落とされた時の人を再現した人形やこげてしまった三輪車や皮ふやつめがとけてぶら下がっているものも置いてあり、展示物から原爆が投下された時の状態が想像できました。

次に被爆者の話を聞きました。その中で私が一番に心に残っていることは家族がいるというだけで平和。家族のみんなで笑ったり、過ごしたり、ご飯を食べたりするだけで、平和ということです。もちろん原爆や戦争がない、おきないということも平和です。他にも、一瞬にして7万人の人と名前と姿が消えたということとか、原爆が落とされた後の広島の町は東北地方で津波や地震でなにもかもなくなってしまった状態と同じだということなど、いろいろなことを教えてもらいました。私は人がたくさん死んでしまう戦争をするのはなぜなのかなと思います。

次の日、広島平和記念公園に行きました。そこで原爆死没者慰霊碑に菊の花をささげました。そのあと少し歩いて、原爆の子の像には、みんなで束ねて願い事を書いた折りづるをささげました。次に、原爆ドームの所へ行きました。間近で見た原爆ドームは残こくな姿でした。石がくずれてしまって、鉄骨が見えているところもあり、原爆の破かいする威力の恐ろしさを改めて実感しました。私は、もう二度と戦争は絶対におきてほしくないと思っています。そして、少しでも早く、世界の中から、核兵器やその核兵器を作り出している国がなくなってほしいです。

今回、広島派遣団に応募して貴重な体験ができて本当によかったと思っています。

原爆の恐ろしさを知って

富野小学校　6年
有村　龍哉

ぼくは世界で初めて広島に落とされた原子爆弾のことをくわしく知りたかったので応募しました。

平和記念資料館を見学して、戦争が本当にこわく、悲しいことだと思いました。

被爆者の方が原爆が落とされた時、広島の街がどの様になったかということを教えて下さいました。

原爆が落とされて10秒たった後に火事が起きたり、大勢の人がなくなられ約6千人の方がこ児になられたことも知りました。原爆が落ちた時白い服を着ていた人は光を反射したけれど、黒い服を着ていた人は服が光を吸収してしまい、服まで焼けこげて体もどろどろになり、目玉が飛び出ていた人もおられたそうです。

又、被爆者の方が赤紙1枚で夫、息子の命をうばわれたとおっしゃっていました。ぼくはそのお話を聞くまで赤紙という言葉は知っていたけれど本当の意味が分かっていませんでした。今、その意味が分かって赤紙という物がすごく恐ろしいものだと思います。

又、被爆して生き残った人は色々な病気にかかりその苦しさから自殺した人までおられるということを知りました。せっかく生き残ったのに本当に悲しいです。

ぼくには今の広島からは原爆の落ちた様子などは見えないです。けれど被爆された方は今も広島に原爆が落とされた日、8月6日に昔を思い出してしまうのですごくかわいそうだと思います。

戦争や核兵器がこの世界からなくなった時に、世界が本当に平和になるんだと思います。ぼくが教えてもらったことを他の人にも教えてあげて、世界が平和になる日が一日も早くきてほしいと本当に思います。

広島に行って

富野小学校　6年
近藤美紅

私は、広島に行って「平和の大切さ」「命の尊さ」の事がよく分かりました。

私が広島派遣団に参加した理由は、前に姉が行っていて、「私も平和について勉強してみたいなあ。」と思ったからです。

私は最初、戦争はただの国どうしのけんかだと思っていました。そして、原爆は、すごくこわい物、としか思っていませんでした。だけど違いました。戦争とは、何の罪もない人も、子どもたちまでまきこんでしまう、もう二度と、やってはいけない事です。原爆は、たくさんの人の命や生活、家族、夢、希望を一瞬にしてうばってしまう、私が思っていたのよりも、もっともっとこわい物だという事が分かりました。

バスの中では、佐々木禎子ちゃんの話を聞きました。佐々木禎子ちゃんは、何の罪もなかったのに、原爆の被害を受けて、被爆後、何年かたってから、白血病になってしまって、それから、ずっと折り鶴を千羽折ったら、病気が治るということを信じて、千羽鶴を折ったけど、亡くなってしまったというお話を聞いて、なぜ何の罪もない人が亡くならないといけないのだろうと思いました。なのでこれからは、もうこんな事が起きないようにしたいと思います。

被爆体験者から、今も世界には、2万3千3百もの核兵器があるという事や、インドの町では、ゴミ箱をあさっている子どもが何人もいたという事を聞いて、この世に核兵器があるかぎり、世界は平和にならないということが分かりました。

今、日本では、戦争をしていませんが、他の国では、まだ戦争をしている所がたくさんあります。

私は、1秒でも早く、戦争のない平和な地球になってほしいです。

私は、この広島派遣団に参加して、核兵器のおそろしさ、戦争のこわさ、また、平和の大切さを学びました。

はやく、戦争、核兵器などがなくなって、平和な地球になることを願っています。

広島派遣団に参加して

富野小学校　6年
奥　友香

私が広島派遣団に参加したいと思ったのは、私が1年生の時、姉がこの広島派遣団に参加し、その時話してくれたことがずっと心に残っていたからです。なので、参加が決まった時は、とてもうれしかったです。

7月28日、私は広島に出発しました。広島に着いてはじめに、平和記念資料館を見学しました。資料館には、8時15分で止まった時計、真っ黒にこげた三輪車などが展示されていました。その中で一番目をそらしたくなるくらい怖かったのは、原爆が落ちた時の人の人形です。皮ふはとけてぶらさがり、かみの毛は逆立ち、服はボロボロでした。その人形を見ただけで、原爆というものの恐ろしさが伝わってきました。信じられないというより、信じたくない思いでした。地下の展示室にはいろいろな絵などが展示されていました。ほとんどの絵が、水を求めている人の絵で、「ミズヲクダサイ」などと書いてありました。たくさんの絵を見て、今すぐにでもお水を持って行ってあげたいなあと思いました。本当に悲惨でした。

次に被爆者の岡田さんのお話を聞きました。岡田さんは、アメリカ軍の飛行機を日本の飛行機だと思って、手を振っている時に、原爆が落とされたそうです。落ちてきた瞬間、周りが「ピカー」と光って、その後のことは怖くて、覚えていないとおっしゃっていました。体験談を聞いて、原爆の恐ろしさや、戦争は絶対にやってはいけないことだと改めて思いました。そして「思い出すのはつらいけど…。」と言いながらも、つらい体験を話してくださった岡田さんの思いを、しっかりと受けとめなければいけないなと思いました。

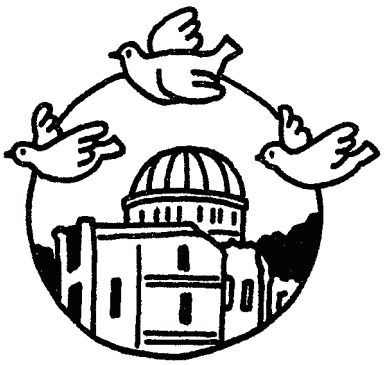
翌日、広島平和記念公園を歩きました。初めに原爆死没者慰霊碑に花をささげました。私たちの他にも、たくさんのお花が置いてあったので、少しうれしくなりました。一人でも多くの人が、この広島を訪れ、自分の目で見て原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを知って欲しいと思いました。

次に、原爆の子の像に折り鶴をささげました。原爆の子の像は、12才の時、白血病で入院し、つるを千羽折ると病気が治るという言い伝えを信じて、薬の包み紙などで鶴を折り続けながら、短い人生を終えた佐々木禎子さんの死をきっかけに作られたそうです。禎子さんの話は、バスの中で聞きました。禎子さんは、一度千羽折りましたが、病気は悪くなるばかりでした。そこで禎子さんは、もう千羽折ることにしたそうです。でも、その途中に亡くなってしまいました。私と同じ年で亡くなるなんて、とてもかわいそうで、悲しいと思いました。そして、最後までつるを折り続け、必死で生きようとした禎子さんは、強いなあと思いました。私はとても健康です。毎日好きなことができ、好きな物も食べることができます。この派遣団に参加して、今、生きていることが本当に幸せで、感謝しなければいけないなあと思いました。

次に、原爆ドームを見に行きました。原爆ドームは骨組み

だけになっていました。原爆が落とされる前のドームの写真とは大きく変わっていました。ここでも原爆の威力のすごさを改めて感じ、こわくなりました。

他にも爆心地や、平和祈念館にも行きました。今の広島は、「本当に原爆が落とされたの？」と思うほど、きれいな街です。でも、原爆や戦争の勉強をして、原爆や戦争のことを決して忘れてはいけないと思いました。そして、世界中の人たちにもっと知ってもらいたいと思いました。戦争が一日でも早くなくなり、平和で世界中の人たちが、幸せでいられますように。



現実の広島

富野小学校　6年
小林未夢

私は、初めて「戦争」という事について知りました。戦争をまったく知らなかった私でも話を聞くだけでなみだが勝手にあふれてしまうぐらいおそろしくて、ひさんで、悲しいものでした。でもそんな中でもおにぎりを分けたり手当てをしたりする、人と人との「やさしさ」を知り自分までやさしい気持ちになれる温かいものがあった事も知りました。

特に、一番印象に残り心が深く傷ついたのは―「人」―でした。ほとんどの人達が目に見える傷と目に見えない傷をおって、「水～みっみず～」とさまよう姿を想像するだけで、今でもすうっーと寒気がしてきます。また3千度の熱で焼かれた皮ふがとけてたれ下がっていた事も初めて知りおどろきました。

資料館には、他にも「8時15分で止まってしまった時計」「真っ黒こげのお弁当」「半分以上がこげて無くなっていた服」「ボロボロの三輪車」など、どれも目がくぎづけになるような物ばかりでした。

「これが現実の広島なんだ。」

とショックでした。今の元気でいきいきしている広島とはまるでまったく違っていましたが、2日目に行った原爆ドームだけは昔のまま、ありのままの姿で残されていました。これからもずーっとあり続ける原爆ドームが、後世の人々に戦争のおそろしさ、ひさんさを伝え続け、日本を、世界を、平和にしてくれる事を私は願っています。

そして、きくの花をささげ「安らかにおねむり下さい。あやまちはくり返しませぬから。」と唱えました。原爆の子の像におりづるをささげ、広島を出発しました。今回見せてもらった資料は目をそむけたくなる物が多かったけれど現実にあった事にしっかり目をむけて本当の平和を守っていきたいです。

私は、あらためて「なぜ戦争が起こったのだろう。」「なぜ人が人を殺してしまったのだろう。」と疑問に思います。それはきっと戦争がこの世界から消えてもわからないかもしれません。でも、本当に大切な事は戦争の「意味」ではなくて後世の人達に戦争のおそろしさ、ひさんさ伝え、もう二度と同じ「あやまち」をくり返さないようにする事だと思います。

広島に行って

深谷小学校　6年
櫻井一成

ぼくは、広島派遣団に参加した理由は、広島について学び、みんなに伝えたいから参加しました。広島に行くと平和記念資料館を見学しました。原子爆弾が落とされ、たくさんの人が亡くなりました。66年前にこんなおそろしい事があったとは知りませんでした。パソコンや資料を見て広島について学びました。色々見て「アメリカ」はなぜ原子爆弾を落とし、なぜ子どもの命をうばったのかと思いました。熱くてひふがとけた人が川にとびこんで死んでいく姿を見るととても悲しくなりました。

アメリカは広島を焼け野原にしてどう思ったのか知りたいです。

次に被爆者の方の話を聞きました。その人はとても悲しかった、怖かった色々な事を言っていました。食べ物もないし水もない、栄養をもらえず死んでいったあかちゃん。ぼくは、その話を聞いてとてもとても悲しくなりました。ぼくはこのような時代に生まれていません。

でも、今も世界のどこかでは、戦争をしてそのせいで苦しんでいる人々がいることを考えなければいけないと思います。

２日目に広島平和記念公園を見学しました。そこで花とつるをささげました。

広島二中原爆慰霊碑を見て原爆の子の像に行き、原爆ドームに行きました。実物を見て原爆の恐ろしさがわかりました。その時広島の人々は何がおこったかわからなかったのだろうなあ、とても苦しかっただろうと。

その後広島風お好み焼き体験をしました。とてもきんちょうをして下手くそでした。でも教えてくれる人が上手につくるやり方を教えてくれました。できあがるとお好み焼きには見えなかったけど、おいしかったです。それでバスに乗って帰りました。広島をすぎるともう帰るのか、もっと勉強したいと思いました。ぼくは広島に行ってとても良かったと思います。友達もたくさんできました。

これからは、広島と長崎に原爆を落とされた日、そして終戦記念日にはもくとうしたいと思います。

そしてこのような悲しい事がおこらないように祈っています。

広島派遣団に参加して

深谷小学校　6年
槇　宇　楽

私は、広島の事をよく知りませんでした。

それで、広島県に着き昼食を食べ終わり平和記念資料館の中に入り展示物を見たり、触ったりして原爆の恐ろしさが伝わりました。最初のワクワク感が消え悲しみしか残りませんでした。

次に、地下室の展示物を見ました。絵がほとんどでしたが、それでも十分原爆の事がわかりました。

その絵は、その時あった事をそのまま書いているようで見るのがいやになる絵もありました。

次に、語り部さんの話を聞きました。語り部さんは被爆された方で、8月6日、午前8時15分、どんな事がおきたのか知っていて、それは、想像できないぐらいのものだったという事を聞き、心がとても傷つきました。

せっかく元気に生きてきたのにこんな事で命をおとされた方は、「かわいそう」ですまされないなぁって思いました。

みんな平等な命なのにたった一発の原子爆弾でたくさんの大切な命がいっきに失われたことが今は想像ができませんでした。

その日の夜にミーティングをして色々な人の思いを聞き、その言葉の一言一言大切だなぁって思いました。

1日目をとおして、行くとき楽しみだった広島だったけど、原爆への思いがすごく変りました。

2日目原爆死没者慰霊碑に行き、平和を願い花をささげました。

次に原爆ドームに行き、広島では、そこだけしか残っていない原爆のすさまじい恐ろしさを実感しました。

今では、平和な日本には過去の恐ろしさがあるから今の日本でいられるという事を、あらためて感じました。

原爆が落とされて、焼け野原になった広島は、それでも人々が助けあって跡形も残らない位に回復するのには、やっぱり人々のおかげだなぁって思いました。

最後に、今平和でいられるのは人々のおかげであり、生きている大切さを派遣団になってわかったことだなぁって思いました。

平和学習をして

深谷小学校　6年
大矢千紗

私は、平和学習をする派遣団として、広島に行きました。まず、最初に広島の平和記念公園にある資料館に行きました。そして中を見学しました。かべにはってある資料を読むと、日本に原爆を落とした理由や、そしてなぜ、広島にその原爆を落としたか理由がよくわかりました。そして、かべにはってある資料を見ていくと写真があって、その中のアメリカの首相とロシアの首相は、笑っていました。自分達が落とす一個の原子爆弾が、たくさんの何の罪もない人を、死ぬまで苦しめるというのを知っているのに笑っていました。それを見て、私はすごく、くやしかったです。そして、原爆を落とされる前の広島と、落とされた後の広島の模型を見ました。すごく違いました。原爆を落とされる前の広島はすごくきれいな町でした。でも、原爆が落とされた後の町は、もうほとんど何も残っていませんでした。うそみたいでした。そして東館へ行きました。すると、その時の人々の様子を再現した人形がありました。すごくこわかったし、信じられなかったです。目をそらそうとしたけど、「私達はこの本当にあったことをきちんと受けとめないといけない。」と思い、その説明を読み、人形もよく目に焼きつけておきました。その横にある展示物の時計を見ると、8時15分で止まっていました。原爆は一しゅんにしていろんなものをこわしたり、人の命をうばったんだとわかりました。そしてその当時の、原爆を落とされた人の弁当箱やもんぺがありました。弁当箱は「滋君の弁当箱」といって、展示されていました。中の具は黒こげでした。すごい熱だったんだと思いました。

次の日、みんながつくった千羽づるを原爆の子の像にささげに行きました。たくさん千羽づるがありました。中には千羽づるで字や絵を描いていました。すごかったです。そして爆心地へ行って、原爆ドームに行きました。テレビや本でみたことがあるけど、すごい迫力でした。まわりにレンガが飛びちっていました。もうゆかとかがぬけていたのがすごかったです。次に被爆者の話とかがパソコンで見れる所に行きました。その話を見ていると、すごく悲しかったです。

そして、広島のお好み焼きの体験に行きました。初めて自分でお好み焼きを作りました。すごくおいしかったです。また作りたいです。

私は、平和のことをいっぱい学んで、核は二度と作ってはいけないということもわかったし、平和というのはすごく幸せだと思いました。私たちも命を大切にして2度とあんな悲劇がないようにがんばりたいです。

広島を訪ねて

深谷小学校　6年
矢野　瑞季

私が、広島派遣団に参加したのは、友達からすすめられて興味を持ち、広島派遣団に参加しました。

平和記念資料館に入って、中を見学しました。そこでは、原爆のおそろしさ、怖さが伝わりました。すごくちぎれた服、燃やされた物など目にした物は、悲しさや苦しさがあふれる物ばかりでした。放射能でたくさんの人々が死亡し、悲しんだ人や苦しんだ人の痛みを感じました。

次に被爆体験者の話を聞きました。私はこの話を聞いて命の大切さが分かりました。放射能をあびた人は、とけて「水をくれ！水をくれ！」とさけんでいて死んでいくので私は、怖くて怖くて命は大切と言うことを教えてもらいました。

２日目は、広島平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に花をささげました。次に原爆の子の像に折鶴をささげました。歩いて原爆ドームに行きました。建て物はボロボロでびっくりしました。放射能を原爆ドームはあびてこんなにボロボロになるなんてとても悲しみを感じました。爆心地には看板がたっていました。国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の中に入って広島のことを調べたり、死亡した人の名前や人が画面に出てきたりして話をしんけんに聞いて、思ったことは、原爆と放射能は人間を傷つける、広島は一瞬で焼け野原になり、罪のない大人や子どもまで放射能にあびて死亡するということなどとても悲しく、平和を守りたいと思いました。

広島風お好み焼き体験をしました。自分自身は、うまく作れないと思っていましたが、キャベツを焼いたり、ソースをかけたり、学べたこともあったし、作った後のお好み焼きとジュースは、すごくおいしかったです。

この２日間、広島の８月６日の原爆のことが勉強になり、理解できました。原爆というすごくおそろしく、人間を苦しめる、原爆は二度と起こらないように平和を守っていきたいと思いました。戦争は、これからも世界中の人間すべての人が、仲良くし合って、世界を守っていきたいと思いました。

私自身、これからの人生は、相手の痛みを分かる人間になっていきたいと心から思いました。今までは、自分のことばかり考えていた気がします。家族、先生、友達、それ以外の人々、人間って何十億の人々がいて、みんな性格もちがうし、生き方もちがうし、これからの私自身、変わる気がしました。本当に今回の２日間、広島のことが分かって本当に勉強になりました。いろいろとありがとうございました。

広島で学んだこと

深谷小学校　6年
小谷　徹也

ぼくはなぜ広島派遣団に参加したかというと、兄にすすめられたからです。

市役所からバスで広島へ行きました。最初に平和記念資料館を見学しに行きました。そこに展示されていたのは、原爆の怖さを伝えるような物ばかりでした。その中で、ぼくが一番印象に残ったのは、原爆が落とされたその時間（8時15分）に止まってしまった時計です。資料館地下展示場では、原爆の様子が書かれた絵や本を読みました。原爆は本当に恐ろしいことだと改めて思いました。次に被爆体験者の話を聞きました。その話を聞いてぼくは鳥はだが立ちました。

2日目には、慰霊碑に行きそこでぼくは、「核兵器がこの世から無くなって世界が平和になります様に」と願いながら花を捧げました。そして、原爆の子の像に、昨日みんなでメッセージを書いた折り鶴を捧げました。みんなの願いが届いてほしいと思いました。原爆ドームは原爆が落ちた時のままで、みんなが広島に原爆が落ちたことを、忘れないようにそのままの形で残してあるのがすごいと思いました。

ぼくはこの2日間でいろんなことを感じました。

それは、「何故人は戦争をするのだろう」戦争をしても何も解決しないし意味もないのに人を傷つけてしまうということです。

ぼくは戦争は二度としてはいけない事だと思います。さらには、この世界から核兵器が無くなって欲しいと願っています。

ぼくはたった一つの原子爆弾で多くの大切な命がうばわれたことをとても悲しく思います。

そして戦争で犠牲になった多くの人たちのためにできることは、今回知ったことを一人でも多くの人達に伝えることだと思います。

ぼくはこの広島派遣団に参加して、とても貴重な体験が出来ました。

ぼくにとってこの機会は忘れられない2日間になりました。

最後に世界中の人たちが平和な国でくらせますように、とぼくは願っています。

広島に行って

南城陽中学校　1年
神　紗彩

私は、広島に行って、本当によかったと思います。

最初に、「平和記念資料館」に入った瞬間、外の空気とは違い、すごく戦争の恐怖や悲惨さが伝わってきました。そこには、原子爆弾が落とされる前と後の広島の様子がありました。それを見た時私は、原子爆弾一つでこんなに町が変わるなんて・・・と思いました。その変わりはてた姿は、あの「東日本大震災」と同じだそうです。

その後、「被爆者の講話」を聞きました。すごく胸が痛みました。顔もわからない。性別もわからない。目玉がたれさがっている。皮ふもたれさがり、中には骨まで見えている人々が町にたくさんいたそうです。川には、ボートですすめないぐらいの「死体」。やけどをおった人の体には、ウジが全身にわいていたり。このような話を聞いた時、本当にビックリしました。でも、一番おどろいたのは、私語をしただけで非国民あつかいにされること。空からふってきた紙びらを拾ったら警察につれていかれることです。ちょっとしゃべっただけでも非国民だなんてその当時の日本の政治はどうなっていたんだろうと思いました。

原子爆弾1つで約14万人もの人々の命がなくなるなんて・・・。たった1つの原爆で家族や友人、家や食べ物がなくなるなんて・・・と思いました。

今、兄弟ゲンカができる、中学校に行って勉強をしたり、友達に会えてしゃべれたり、部活に行けるのは、今が「平和」だからということがわかりました。

私は、広島に行って、平和の大切さ、核の怖さなどを教わりました。

広島に行ってよかったです。

色々な事を学んだ平和学習

南城陽中学校　1年
大　西　優衣香

7月28日、29日に私は、「小中学生広島派遣団」に参加した。まず1日目。バスで5時間ほど過ごし、昼食を食べた。その後、平和記念資料館を見学した。ここで一番印象に残ったのは、禎子さんの話。放射能をあびて、がんになってしまった禎子さんは、つるを千羽折ると、願いが叶うという言い伝えを信じていた。病気の回復を願いつるを折り続けたが、願いもむなしく亡くなった。まだやりたい事があったし、まだまだ生きたかっただろう。私だったら、途中であきらめてしまうだろう。毎日痛くてつらい日々がいやになり、死んだ方がいいと思うかもしれない。現在、折りづるは、禎子さんの物語と共に、平和の象徴として世界に広がっている。広島へ行く前に、50羽のつるを折るようにという課題があったが、その意味が分かった気がした。

次に行った所は資料館地下展示場。どれもこれも、私の目に焼きつくようなものだった。なかでも、こげてとけた三輪車。形が分からないほど、焼けきっていた。

次に、被爆者（岡田さん）の話を聞いた。1つの原子爆弾で7万人が即死。10秒で赤く染められた広島。だから、夕日を見ると、戦争の事を思い出すから怖いらしい。夕日は、きれいなものだと思っていたが、そう思わない人もいるのだ。爆弾が落とされて、家族がいなくなるかもしれない。自分も焼けて、明日が来ないかもしれない。当たり前だと思っていた事が、岡田さんの話で考え方が一変した。

2日目。原爆死没者慰霊碑に行き、花を捧げた。私は、昨日の話を思い、しっかりお祈りした。広島二中原爆慰霊碑に行き、原爆の子の像へ行った。ここには、たくさん千羽づるがあった。この千羽づるにもたくさんの願いがこめられていると思った。私達も、被爆者の思いを胸に折りづるを捧げた。

次は一番見学したかった原爆ドーム。何も言葉が出なかった。色は落ち、まっ黒。そして、こげきった原爆ドーム。目をそむけたくなるほど残こくだった。今まで、これほど残こくな物は見た事がないだろう。

追悼平和祈念館では、被爆後の広島の街の様子を見た。きれいだった広島は、建物などすべてが燃えつくされ、ここがどこか分からないくらい跡形もなかった。ほかにも、被爆体験記を読み色々な事が分かった。一瞬にして様々な物、人の命をうばう戦争の怖さが改めて分かった。そして傷ついた広島の人の苦しさ、悲しさが分かった。

昼食には、広島風お好み焼きを体験した。京都のお好み焼きと違い、作るのが難しかった。自分で作ると、とてもおいしかった。

この2日間を通して、「命の大切さ・戦争の怖さ」を学んだ。この広島での出来事をみんなに伝えたい。そして世界平和を願いたい。

心の変化

東城陽中学校　1年
塩田　黎

私は、広島へ行く前から学校の授業で、『はだしのゲン』や『つしま丸』、『おこりじぞう』などの戦争に関するＤＶＤを何度も見たことがありました。でも、見るたびにその映像が頭から離れず、ただの飛行機が空を飛んでいる音を聞くだけで怖くなってしまうようになりました。そのうちに、私にとって戦争は、目をそむけたい、考えたくないものになりました。なので、母が「広島に行けんで。」と私に言った時、正直、最悪だと思いました。しかし、7月16日に文化パルク城陽で説明会があった時、1階に原爆での被害などの絵や写真が展示されてあった中の1枚の写真を見た時、私は思いました。「ああ、戦争からにげていては駄目だ。この恐ろしさを、きちんと目に焼きつけておこう。」と。その写真には、『見てください』というタイトルがついていました。何の罪もない子どもが、原爆の被害で、苦しそうな表情のまま、まっ黒こげになって、まるで丸太のように固まっている写真でした。

当日、広島に着くと、あれ?と思いました。すごく綺麗な街だったからです。でも、道を歩くと、想像してしまいました。この道を、苦しみながら歩いていたのだろうか…とか、この川に、水を求めて飛びこんだんだろうか…と。広島は、ただ歩いているだけでも、原爆について深く考えることのできる町だと思いました。

資料館では、展示してあるものを一つ一つじっくりと見ました。その中でも、特に印象に残っているのは、生死の境という題がついているものです。人間がこんな姿になるなんて信じられない、と思いました。この展示物を見たことで、私は、過去に人間が犯した罪の重さを改めて感じることができました。ですが、被爆者の方々は、「実際はあんなもんじゃなかった。実際は…あれの1万倍くらい悲惨だった。」とおっしゃっていました。

広島平和都市記念碑を見た時、私は、広島に来て良かったと思うことができました。「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませぬから」これを、この記念碑の目の前で誓えて本当に良かったです。そして、この言葉は世界中の人々が知っておくべき言葉だと思いました。

広島派遣団を終えて、私がいちばん思ったことは、戦争や原爆のことから目をそむけたままにしなくてよかった、ということです。きっと、前のままの私なら、命の尊さについて深く考えることはなかったと思います。そして、私にはまだ仕事があります。伝えることです。私の説明で、私が見たり聞いたりしたことのどれくらいのことが伝わるかはわかりません。でも、少しでも興味を持ってもらうために、少しでも風化を防ぐために、私はこの仕事に全力で取り組もうと思います。

広島に行って

城陽中学校　1年
河　合　健志郎

僕は、7月28日に広島派遣団員として広島に行きました。お昼ご飯を食べてから平和記念資料館を見学しました。そこで見た原爆投下後の焼け野原やボロボロになった服などは、目をそむけたくなるほどショックなものでした。この原爆で約14万人が亡くなりました。しかも今もまだ後障害で苦しんでいる人たちがいます。

その次は、地下で被爆者が描いた絵を見ました。絵は黒い雨の絵や被爆した時の絵がありました。

絵を見た後は、被爆体験者の話を聞きました。その話から被爆者の悲しみや痛みがひしひしと伝わってきました。

次の日、広島平和記念公園に行きました。そして、原爆死没者慰霊碑で花をささげました。

そして、広島二中原爆慰霊碑を見てから原爆の子の像を見ました。僕は、原爆の子の像で折り鶴をささげる時びっくりしました。そこにはとても数えきれないほどの折り鶴がささげてありました。

原爆の子の像で折り鶴をささげたあと、原爆ドームを見ました。写真で見るのと自分の目で直接見るのは全く違っていました。原爆ドームからは、原爆のひどさが生々しく伝わってきて、僕はとても悲しくなりました。

原爆ドームを見た後、広島焼きを自分で作って食べました。初めて作るのできんちょうしたけど、とてもおいしく作れました。

その後バスに乗って城陽市に帰りました。僕が広島派遣団員に応募した理由は、母に広島のことを勉強しておいでとすすめられたからです。僕は、広島派遣団員に参加して、とても良い経験になったし、命の大切さや平和の大切さなどが分かったから行って良かったと思いました。戦争は絶対にしてはならない事です。僕は、戦争をしないために、これからも語りついでいかなければならないと思いました。僕は、戦争や核兵器がなくなる時代が来ることを願っています。

言葉の意味

城陽中学校　1年
田中　輝

資料館に入ったとき、「楽しみ」という気持ちから一変し、「恐怖」という気持ちに変わりました。

半分勉強、半分旅行の気分で行った広島。そんな気分で行ったのが間違いでした。資料館は残酷。全身やけどで水を求めて彷徨う人々、赤ちゃんをだいたまま死んでいるお母さん、食りょうを求めて争いをおこす人々。どれも目をそむけたくなるものばかりでした。

広島は楽しかったです。新しい友達もでき、寝る前や、バスの中でワイワイやっていました。でも、資料館などで見たことが、楽しさの倍くらい頭の中に残っています。

被爆体験者の話を聞いて、ぼくは一つ心に深く残ったことがあります。それは「死ね」という言葉です。「死ね」という言葉は、人を簡単に傷つけることのできる言葉です。ぼくは、「死ね」という言葉を何回も使ったことがあります。友達がうっとしいことをしてきたときや、「死ね」と言われた時は、「死ね」「うざい」「ちょーしのんな」と、言い返してきました。でも、たとえ冗談でもそんなこと絶対に言ってはいけないんだと、広島や被爆体験者の話に気づかされました。

原爆で何の関係もない人が何万人も殺され簡単に、一発で大勢の人の命を奪う原爆。

被爆体験者の方は、その恐さを知っているのです。

原爆のことをよく知っている人は、「死ね」という言葉の意味が分かるはずです。

よく考えたら大人に「死ね」と言われたことはありません。大人はその恐さを知っているんだと思います。

言葉には意味があります。あいさつ、お礼、ほめるとき、おこるとき。でも、「死ね」という言葉はどこにも入っていないと思います。

ときには、人をいやがらせる言葉を、言う人もいるかもしれませんが、ぼくは違うと思います。「死ね」という言葉は論外だと思います。

これからは言葉の意味を考えて、人と話していきたいと思いました。ぼくはこのことを広島に教えてもらいました。

そして、そのことを知らない人々に、広島で学んだことを、伝えていくのも、広島派遣団の役目だと思います。

広島派遣団へ行って

南城陽中学校　1年
森西　光

私は友達と広島派遣団に応募しました。でも残念なことに私だけが当選となり、悩んでいたところ、派遣団を体験した2人の姉に「新しい友達を作るチャンスと思って行けば?」と言われ、不安でいっぱいでしたが、思いきって1人で行くことにしました。

1945年8月6日の8時15分、B−29によって「リトル・ボーイ」と言う原爆が落とされたことを初めて知りました。

広島に着いて最初に行った平和記念資料館では、8時15分で止まっている時計や黒こげの弁当箱、3才ぐらいの小さい子が使っていた三輪車とヘルメットなどの遺品が置いてあったり、ひふがとけて男か女かもわからないような人が3人いて、とてもこわかったです。

「水!水!」とさけんでいたり、母親が小さい子を背負って病院に向かっていく姿や、1000度ぐらいの温度になった川に体を冷やすために次々と飛び込んでいる人々の絵を見て、原爆1つだけでこんなに水温が変わるんだと思いました。その後に降った黒い雨も、放射線だと知った時、そこにいた人達はまさか放射線って絶対わからなかっただろうなぁと思いました。そして、講話をしてくださる語り部さんからの話を聞いて、病院は破壊され、髪の毛はさわればバサッと抜けたり、やけどをした人は全員ケロイドになり、すごくおそろしいことだと思いました。

追悼平和祈念館に行くと、原爆で亡くなった人達のことを静かに思い、平和について考える場所としてつくられたスペースがありました。広島市を一望できる中央に台形型で滝のように水が流れています。この水を亡くなった人は飲めなかったけれど、冷たい水が原爆を落とされた日にどんなに必要だったかが、とてもよくわかりました。

図書室では本を見ました。遺品がいっぱいのっていて、これを全部実物で見たんだなぁと思いました。

そして、原爆の子の像に折り鶴をささげました。そこには、折り鶴を工夫してPEACEの文字が見えて、すごくびっくりしました。

2日間広島に行って、どれだけ原爆が怖くて恐ろしいものかが、大変よくわかりました。あと何回の式典で戦争がなくなるのかなぁとも思いました。来年、さ来年広島派遣団に行く人も広島がとても大変だったことを実感してほしいです。

平和とは何か

西城陽中学校　２年
西　森　駿　也

原爆、１９４５年８月６日午前８時15分、広島に落とされた。長さ３ｍ重さ４トンのたった１つの原爆が広島を焼きつくした。

広島平和記念資料館でただただアメリカという国に怒りを感じました。なぜ彼らは原爆を作ってしまったのだろうか、なぜ広島へ落としたのだろう、水がほしくても川へ行ってはいけない、それは放射線や灰、ほこりのまじった雨だから逃げて下さい。色々な感情が込み上げてきます。たくさんの人が戦争によって亡くなった。指ではもう数えられないくらい、たくさんの人の帰るべき場所がなくなってしまった。あの戦争がおわって66年目になる。戦争を体験された方は、決して楽しい夏ではないと思います。平和を願い詩を作りました。どうか聞いて下さい。

―平和―

戦争が世界の形を変えた
平和が世界の形を変える
失った物は大きすぎた
失った物は取り戻せない
　けど
手に入れたものもある
あの過ちをもう2度とくりかえさない心
　愛と勇気が
今日も世界を平和に導く
世界の人々が互いを信じたとき
本当に美しい明日が見える

原爆が落ちた町として広島を見ると見ちがえるほど立派な町になっています。ここまで美しい町になったのは、強い心をもった日本、広島の人たちの力でここまで進んでこれたのだと思います。東北の大震災もたくさんの人の想いが復興への足を早めます。今も世界で戦争がおこっています。生命の尊さが分からない人は今も生命をふみにじります。

平和は何ですか？平和が平等と同じなら、貧困の差で不平等が現れます。わかりません。けど僕は平和を願います。あの時おきたことを今度は僕が後の世代につなげていきたいと思いました。

広島に行って

南城陽中学校　２年
吉田彩恵

私は、広島に行けてよかったと思います。なぜなら広島には戦争でなくなられた方、家族をなくした人、お母さん・子どもをなくした方いろんな人がいます。

それをそれを一生懸命のりこえようと思う人がいます。

熱っつい熱っついといいながらお水の中に入り体を冷やそうと思う人々。２０００℃以上の鉄がとける温度。水に入る人々がすごいです。

服がこげ、ケロイドになる人々、かみの毛が全部ぬけた少女、白血病になる子、肺ガン、乳ガンなどになる人々。みんな、アメリカ軍Ｂ－29にやられました。

まだこの世界には、核弾頭がいっぱいあるらしいです。こわいです。

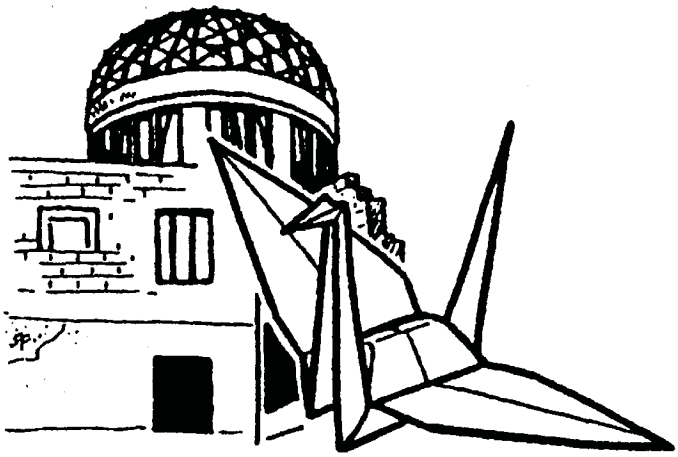
特に、私がおどろいたのは…

『佐々木禎子さん』です。

サダコさんは、２才の時に被爆されました。小学校６年生の秋にとつぜん白血病と診断されました。

病気をなおそうとするサダコさんは、千羽づるを折りつづけました。

千羽づるの完成で、病気が治ると聞いたサダコさんはおりつづけ、12才と言う短い生涯をとげました。



広島に行って

南城陽中学校　２年
宿　利　紗　英

私は友達にさそわれて広島派遣団に応募しました。だから怖いこととは知らず普通に旅行気分でいました。長い間バスに乗って広島に近づくにつれわくわくしていました。

資料館での見学では、そのわくわく感は消え、いつしか恐怖?怖さ?ていうのがでてきていつのまにか楽しさとかは完全に忘れていました。

資料館で一番印象に残ったのは、「原爆を落とされる前の広島」と「原爆が落ちた後の広島」の町の模型と皮膚?皮がたれさがった人の模型で、爆弾が落ちる前と後の模型は本当にびっくりで後の方なんてもうほとんど何も残ってませんでした。人の方では性別もはっきりとはわからず、これからもっと先の講話で聞いた話と同じで、手を前にして立っている形でした。普通にくっつけちゃうと痛いし皮膚と皮膚がひっついちゃうから手を前にしているそうです。資料館は広くていっぱいいろんな物が展示してあって時間がたりないくらいでした。

被爆者の講話は、少しむずかしいとこもあったけどよく分かりました。実際に体験した人の話は見学とか見るより怖さ…が感じられました。外を歩くと死体が転がっていたそうです。想像しただけでも本当にもう無理でした。

２日目の朝、慰霊碑に花を捧げました。そこで写真をとり歩きました。

原爆の子の像では折り鶴を捧げました。そこではいっぱい鶴がつるしてあって、折り鶴だけで文字とかを作ってあってすごかったです。世界中・日本中から折り鶴が集まってきてるのがよく分かりました。

次の原爆ドームではその当時のまんまが残ってるっていうのが生で見れました。なんだか感動しました。原爆が落とされて何もなくなったとこからがんばって今のようになったと想像して思うと、本当にすごくて感動的です。

追悼平和祈念館ではいろんなことを調べました。コンピューターで名前からとか性別、何才からとかで選んで聞けるのがありました。（ヘッドホンで聞く）聞いてたら本当にいやになってきました。目をそむけたくなりました。でもこれは実際にあった話、目をそむけてはいけないというのが考えられました。

その日のすべてが終わり、おみやげもしっかり買って家に帰りました。広島に行ったことでいろんなことを学んで分かったことがあります。人の命がとても大切なこと、家族がいるということ…。とっても勉強になりました。

これからの未来で、戦争も核兵器もなくなる平和な世の中になってほしいと願っています。

平和の尊さを学んで

四天王寺中学校　3年
齋藤穂香

広島原爆投下8月6日、長崎8月9日により、何の罪もない多くの人々が犠牲になり、66年たった今でも犠牲になった人々の苦しみはなお続いています。原爆の恐ろしさは、被爆された方々が語り部となり、私達に伝えられています。

私の中学校では、3年の秋、長崎へ修学旅行に行きます。主に長崎の原爆について学びに行くのですが、私の持っている原爆の知識は殆どなく、今回、城陽市の広島派遣団の募集を知り、世界で最初に原爆投下された広島に自ら足を運び、原爆の爪痕を自らの目で見て、自らの耳で聞き、学ぶことで、長崎への修学旅行に向かう気持ち、姿勢が変わるだろうと思い応募しました。

1日目は平和記念資料館に向かいました。今でも大切に保管されている被爆を受けた様々な物、写真等、思わず目をそむけたくなるような物が多く展示されていました。資料館には、私が今まで無意識のうちに恐ろしくて現実逃避していた事から180度意識を変え、現実にあったこととして受け止めさせてくれた最初の場でした。

また、その後、被爆者の方の講話を聴かせて頂き、その語りは、被爆者の方々が偏見や差別による苦しみや悲しみに耐え、乗り越えながら生きてきたことや、実際に経験したからこそわかる原爆の本当の恐ろしさを私達に教えて下さり、まるで目の前で見てきた事のように脳裏に焼きつき、思わず涙ぐんでしまいました。

2日目は、広島平和記念公園に向かいました。前日に皆で色々な願いを込め、折った千羽鶴をつなげ、メッセージを添えたものを、平和を祈りながら原爆の子の像に捧げました。

そして、やはり私の中で、一番原爆の恐ろしさと現実を意識することとなったのは、「原爆ドーム」を間近で見たことです。

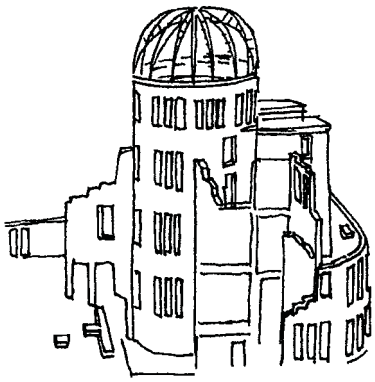
私は広島に訪れ、自らの目でしっかりと残された現実の姿を見ることができた時、参加できたことに感謝の気持ちでいっぱいになり、また、原爆がもたらした被害の深刻さをこの先もずっと風化させてはいけないと、心の底から思いました。

私達が、日々学校に通い、たくさんの事を学び、家族と共に平凡に笑顔で暮らせるという事を当たり前のように思っていましたが、平凡に暮らせるという事が、どれだけ幸せな事かを思い知らされ、今の自分を何度も振り返った2日間でした。

今、日本では、震災により、原子力エネルギーの施設が被害を受け、再び人々が被爆の恐怖と戦っています。

エネルギーは私たちが暮らしていく上で大切な動力です。しかし、核というものが、世界のどこかに存在する限り、死への恐怖を避けることはできません。

戦争や核は、罪のない人々や自然までもを破壊してしまい、人々を苦しめるものです。

日本で起こった原爆や戦争の深い傷を人から人へと伝え、世界中の人々が原爆の本当の恐ろしさを受け止め、もう二度と広島や長崎のような悲劇が起こらぬ様、一人一人が平和を願える世の中になってほしいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂き、また、今回の派遣団でお世話になったすべての方々、本当にありがとうございました。